

増殖抑制に新化合物

腫瘍がんなどの細胞を増殖、不活化させる遺伝子「Pim3」を抑制し、がん治療に効果がある新たな化合物の開発に、金大がん研究所長の向田直史教授と医薬品開発研究センターの石橋弘行教授が成功し、特許を出願、新たな抗がん剤の開発に向けた応用が期待される。

た。以前に開発した化合物と比べ、合成しやすく、構造に変化を加えやすい利点があるという。金大T10（技術移転機関）が11日までに特許を出願、新たな抗がん剤の開発に向けた応用が期待される。

金大・向田、石橋教授が特許出願

向田教授らは2003（平成15）年にマウスの肝臓（Pim3を産生）人間のがん細胞の生存や増殖にも作用していることが分か



向田直史教授



石橋弘行教授

り、がん治療に応用できる可能性があると研究をテーマ、08年にはPim3を抑制する別の構造の化合物を開発した。

今回、石橋教授らが新たに管内で増殖させたがん細胞に合成した化合物を、試験に用いる実験では、Pim

副作用少ない 抗がん剤期待

13の働きが抑えられ、がん細胞が死滅することが確認された。この化合物は、以前に開発した化合物に比べて副作用は弱いが、一方で副作用を避ける可能性は低いという。

有効性検証へ

Pim3を抑制する異なる構造の化合物が見つかったことで、両者を比較しながら有効性を検証することもあるという。向田教授らは「マウス実験で化合物の安全性や有効性を確かめ、新薬の製品化を目指したい」と話している。